

まず始めに、元日に発生した能登地震では、たくさんの犠牲があり、今なお、避難生活を強いられている方方がおられるのに心が痛みます。自分たちの校舎で学校生活を送ることができない多くの子どもたちも被災地にいます。

そのような中、創立一五〇周年をお祝いするこの記念式典に、いつも集えることは、とてもありがたいことです、また、皆様との縁を感じます。

ご来賓の皆様。地域・保護者の皆様。本日は記念式典にご列席いただき誠にありがとうございます。皆様のごつか変わるごとに温かなご理解とご支援があるからこそ、姫島小学校は今日のベシの日を迎えたことができました。深く感謝の気持ちを申しあげます。

五年生・六年生の皆さん。母校の創立一五〇年の節目の年に学校を代表する高学年児童として学んでいます。これはめったにない貴重な機会です。思い切り胸を張ってほしいです。

私を含む教職員の皆さん。勤務校の創立一五〇年の節目の年に学校運営の一員として力を發揮できるひと。これもまた、めったにない貴重な機会だと思います。

そして、このお祝いのために、たくさんの時間と努力をかけて、さまざまな準備を進めていた創立一五〇周年記念事

業委員の皆様。皆様の子どもたちと姫島小学校・姫島地域を愛する気持ちのいい力のおかげで、今日、この日があります。本当に、ありがとうございます。

この晴れやかで諧いっこお祝いの気持ひをこの場に集つすべの人で共有できましたひ、これに勝る喜びせしむせど。

明治七年一月一日の創立。慈雲寺と遍滿寺の一角から始まつて今に至るまでの一五〇年の年月。どれほどたくさんの子どもたちが姫島小学校で学んだことでしょう。どれほどたくさんの保護者・地域の皆様が姫島小学校を支えてくださったことでしょう。どれほどたくさんの教職員が子どもたちの教育に情熱を注いだことでしょう。平穀な時ばかりではなく、戦争や災害や公害など、苦しげ時もたぐいありましたひとと思ふわ。だから、いつの時も、子どもたちは笑顔と前向きな気持ちを、子どもたちを支える大人たちは温かな愛情を、それぞれ失わなかつたことであつたと感じることができます。一五〇年という歴史の重みをひしひしと感じます。

この一五〇年の創立記念を迎える二学期の始業式。校長講話として、——姫島小学校は、これまで姫島、子どもたちの「成長」の「ホール」として「強さ」を發揮してきたことを強調しました。では、「強さ」となじみながらあか——と聞いか

けた」とから始めました。

常に受け継がれてこない姫島小学校の教育理念であり教育目標でもある「強い子」の醸成。創立一五〇年の節目にあたりたぬて「強い子」につれて考えてみたい。そのよつて題ひ田々です。

過去と現在では、厳しさの中身は違つと思つますが、過去も現在もそして未来も、厳しさの中であることに違つはないと思います。そのよつた厳しさの中をたゞめこへ生を抜いていくかの自信に思ふる「強み」（――）は、良さといふ・尊敬といふに換えてもよこと思つまわ――を確かに身につけておきたいとおもち。そのよつた力だけが「強い子」であると言ふべきです。

それは、自信に思ふる学力かもしない。自信に思ふる体力や運動能力かもしない。自信に思ふる優しさや思つやうの心かもしない。豊かな感性かもしない。そのよつた自信に思える「強み」を、子どもたちに、一つでも多く確かに身につけてほしこと願つてやみません。

校歌には、「我らの息吹もえあがる 聴りむかぬ 姫島校」とあります。また、「栄えある歴史胸にして 永久に輝け 姫島校」ともあります。しかも。もし、これからも。せんじんのよつた姫島小学校であつづかぬことを強く願つてこまか。

以上、姫島小学校創立一五〇周年記念式典の祝辞とさせてい

ただきます。

令和六年二月三日

大阪市立姫島小学校 校長 吉田健太